

# 就活を経験したからこそ 学べたことがある。 柔軟性と多様性を 大事にしながら、 保育の道を深めたい。



MIKU KARASAWA

## 唐澤未来

● 東京保育専門学校 保育科1部

file

4

### PROFILE

からさわ・みく

読み聞かせにはこだわりがある唐澤さん。「読む」のではなく、子どもに「語りかける」ことを意識している。子どもたちの反応をよく見るために、文章を暗記してから読み聞かせに臨むこともあるのだとか。

### 自分なりのチャレンジが認められた責任実習

歳の離れた弟が2人いるほか、年下の親戚も多かった唐澤さんは、昔から周りの大人に頼られる存在だった。保育園のかりつけ医をしている母の勧めもあり、保育士を目指して専門学校に進学してからは、保育を学ぶ面白さに夢中になったという。実習でも堂々と振る舞うことができ、先生からの評判も上々だった。

### わずか3カ月！短期集中型の公立対策

「ある保育園の実習では、1歳児クラスを担当することになりました。その園では、普段は1歳児を3グループに分けて保育していたのですが、私の責任実習では合同で風船遊びをする計画を立ててみました。でも、実習先の先生は『大勢の1歳児をまとめて遊ばせたら、收拾が付かなくなるだけではないか？』と心配されていました」

しかし、唐澤さんは、普段はグループに分かれて過ごしているからこそ、全員で思い切り遊ぶ体験をしてもらいたいと考えていた。ケンカにならないよう風船を多めに用意したり、できるだけ多くの子どもに興味を引くよう風船にさまざまなイラストを描いたり……。事前の準備が功を奏して、試みは大成功だった。

見て、本当にやってよかったと思

いましたね。しかも、実習先の先生からは『唐澤さんの挑戦は、とても参考になりました』といううれしい言葉を頂きました。計画に不安を感じても、私を信じてチャレンジさせてくれた先生方に、本当に感謝しています」

唐澤さんは、わずか3カ月間の試験対策で公立の採用試験に合格している。

「高校卒業後に長野県から上京して、一人暮らしをしながら学生生活を送ってきました。この地で子どもと生計を立てると同時に、保育のプロとして活躍し続けたい……。そうした思いから、2年生になる頃、公立を目指すことに決めました。ただ、実習や授業で思うように時間が取れず、実際に対策を始めたのは2年生の6月頃になってしまいました」

唐澤さんの通う専門学校には、社会人として別業界を経験してから保育士を目指す人や、自分の育児が一段落してから再就職するために学ぶ人も多く在籍している。就職に関するアドバイスを求める先輩たちには事欠かなかった。唐澤さんは公立受験を経験した先輩を中心に情報収集し、効果的な試

験対策を練っていった。

「期間が短いだけに、集中して勉強する必要があります。私は家にいるとリラックスしすぎてしまうので、図書館で勉強することが多かったですね。携帯電話は持たず、勉強道具だけ持参するのがコツ。その状態で、丸一日図書館にこもったこともありました」

アルバイトで帰宅が遅くなったりは、[45分勉強法]が役立つ。人間が集中力を保つことができる限界といわれる45分間だけ集中し、15分間の休憩を取る。このサイクルを繰り返して、ひたすら問題集をやり込んでいった。

### 「涙の面接練習」を繰り返し苦手を克服

頑張りが報われて筆記試験をパスした唐澤さんにとって、鬼門となったのが面接対策だった。人の目を見て話すことが苦手で、面接を想定した練習では極度に緊張してしまう。学校の先生との練習ではうまく話すことができず、悔しさから泣き出してしまいうこともあったという。

「子どもとふれあうのは得意ですが、大人が相手だと緊張してしまいうことが多く……でも、保育園でも子どもとかわるだけが仕事ではないですから、この機会に本腰を入れて練習しよう」と心に決

めました」

筆記試験の合格発表から面接試験までは、わずか1週間ほど。ひたすら練習を重ねると同時に、こんな工夫もしていた。「想定される質問に対する回答を暗記するだけでは、本番で頭が真っ白になってしまったり、想定外の質問に対処できなかったりします。自分の意見の要点だけを確認しておき、聞かれたことに対して、その場で文章を組み立てるよう練習しました」

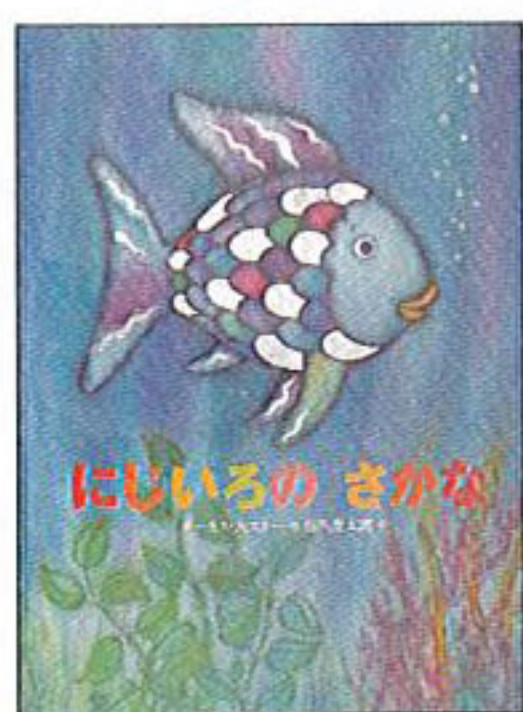
本番では、面接官の目を見て話し、自らの思いを伝えることに成功。無事に合格を手に入れることができた。

「相手の目を見て自信を持って話すことは、園で保護者対応をするときにも、職場の仲間と意見を出し合うときにも、欠かせないスキルの一つ。それを就活を通して手に入れることができたのは、私にとって大きな成長だと思います」

公立の職員ともなれば、1カ所の保育園で働き続けられるとは限らず、ほかの公立の園や施設に移る可能性もある。その点に関しても、唐澤さんは前向きだ。

「だからこそ、柔軟性や多様性という要素が大切になってくると思います。さまざまな立場や考え方の先生に学び、多様な保育の方法を吸収していきたいです」

### 私が選んだオススメ絵本



#### 『にしじろのさかな』

作:マーカス・フィスター 出版社:講談社

キラキラした美しい表紙が目を引く一冊。虹色に輝くうろこが自慢の「にしじろ」は、友達ができずひとりぼっち。タコにアドバイスをもらい、大切なうろこをさかなたちにあげることに決めます。すると、にしじろの心には不思議な変化が起きて……。大人になってから読んでみると、子どもの頃とはまた違った感想を抱かせる名作です。

### 後輩たちに伝えたいこと

公立を視野に入れるなら、やはり筆記対策を早めに始めたほうがいいと思います。私は遅めのスタートを切りましたが、受験する年の1月頃には勉強を始めたんですね。問題数が多いわけではないので「この分野は苦手だから捨てよう」という戦略は通用しません。どの分野も万遍なく学ぶことが必要です。また、時事問題の対策として、テレビや新聞といったメディアにも目を通し、日頃からニュースに接しておくことも大切ですよ。